通学合宿

テンちゃん一家の一週間

事　業　報　告　書

通学型長期宿泊体験で生きる力を

はじめに

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立岩手山青少年交流の家
所長　松　田　栄　二

学習指導要領では、子供たちの「生きる力」をよりいっそう育むことを目指しています。「生きる力」とは、「確かな学力（知）」・「豊かな人間性（徳）」・「健康・体力（体）」のバランスのとれた力をいい、この３つをバランスよく育てることが大切とされています。平成２４年度から国立岩手山青少年交流の家で始まった通学合宿「テンちゃん一家の一週間」は、６泊７日という長期の集団宿泊体験活動であり、先に述べた「生きる力」を育むプログラムとしてその役割を果たしているものと思っております。このことは、合宿ごとに行っている調査（IKR 調査・EQSC 調査）の結果からも明らかであります。

通学合宿の名のとおり、子どもたちは日中は学校に通い、下校後は交流の家で過ごします。交流の家での生活は日常の家庭生活とは切り離した環境ではありますが、学校からの宿題を行い、食事をし、お風呂に入って就寝するという生活サイクル自体は、家庭で普段営んでいる生活と全く次元の違うことをしているのではありません。違う環境といえば、当然のことながら場が異なること、親が不在なこと、仲間との共同生活であること、などです。この環境下での生活においては、様々な出来事が起こります。友達とのいざこざ、グループ間の不協和音・・・。それらを体験しながら子供たちは少しずつ変わっていきます。グループの子の作業を待ってあげたり手伝ったり、困っている子へのいたわりの声掛けだったり、そういった姿が合宿後半には随所に見られるようになります。集団生活のマナーや人との関わり方を学び、今後の社会生活を営む上での貴重な体験の機会となっているといえます。

日常とは一味違った環境下とともに、集団作りの活動や自己を見つめる時間等を一週間の中にプログラミングし、子供たちの成長を助長しています。また、子供たちの心情に寄り添い、苦楽を共にしながら指導・援助にあたる学生ボランティアによって子供たちは安心して存分に自己を表現させます。この通学合宿での子供たちの成長には学生ボランティアの存在がなくてはならないものであります。また、教職を目指す学生ボランティアにとってはこの通学合宿は教師鍛錬・人間鍛錬の絶好の場となります。

通学合宿が始まって４年、鵜飼小学校からスタートし、その後対象校が変わりながら昨年度からは滝沢第二小学校と滝沢東小学校の合同という形で実施し、着実に成果を上げてまいりました。通学合宿の実施に当たっては、滝沢市教育委員会の後援のもと、多大な御支援と御協力をいただいております。また、参加する子供の保護者の皆様、対象校の先生方にも御協力いただきながら成り立っている事業でもあります。さらに、学生ボランティアの皆様には合宿期間中は勿論のこと、運営全般において尽力いただいております。これまでの関係の皆様から賜りました御支援御協力に対し、紙面をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

これまでに上がった成果とさらなる高みを目指すための課題をとおし、よりよい事業となるよう精進してまいる所存です。今後ともなお一層の御支援御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成２８年２月

目　　　次

はじめに　　　国立岩手山青少年交流の家　所長

Ⅰ　事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2　対象校及び期日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　3　参加人数内訳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　4　担当職員，ボランティアスタッフ等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　企画・運営のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1　対象校・保護者との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　2　ねらいに迫るための運営・取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅲ　事業の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　1　事業展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　2　第１回「テンちゃん一家の一週間」（鵜飼小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
　3　第２回「テンちゃん一家の一週間」（鵜飼小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
　4　第３回「テンちゃん一家の一週間」（滝沢東小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　5　第４回「テンちゃん一家の一週間」（滝沢第二小学校・滝沢東小学校）・・・・・・・・・２４
　6　第５回「テンちゃん一家の一週間」（滝沢第二小学校・滝沢東小学校）・・・・・・・・・２７

Ⅳ　通学合宿の効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
１　生きる力・情動知能とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
２　第１回「テンちゃん一家の一週間」（鵜飼小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
３　第２回「テンちゃん一家の一週間」（鵜飼小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
４　第３回「テンちゃん一家の一週間」（滝沢東小学校）・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
５　第４回「テンちゃん一家の一週間」（滝沢第二小学校・滝沢東小学校）・・・・・・・・・４３

Ⅴ　保護者アンケートから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７

Ⅵ　ボランティアレポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
１　テンちゃん一家の一週間組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
２　ボランティアスタッフのレポート（日々のふりかえりシートから）・・・・・・・・・・・５１
３　ボランティアスタッフのレポート（事業を終えてのふりかえりシートから）・・・・・・５４

Ⅶ　成果と課題・・５６
１　成果・・・５６
２　課題・・・５６

Ⅰ　事業概要

１　趣旨

日常の家庭生活とは切り離した環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図る。

２　対象校及び期日

・　第１回「テンちゃん一家の一週間」　　滝沢村立鵜飼小学校
　平成２４年１１月１１日（日）　～　１１月１７日（土）　　６泊７日
・　第２回「テンちゃん一家の一週間」　　滝沢村立鵜飼小学校
　平成２５年１０月２７日（日）　～　１１月　２日（土）　　６泊７日
・　第３回「テンちゃん一家の一週間」　　滝沢村立滝沢東小学校
　平成２５年１１月１０日（日）　～　１１月１６日（土）　　６泊７日
・　第４回「テンちゃん一家の一週間」　　滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校合同
　平成２６年１１月　９日（日）　～　１１月１５日（土）　　６泊７日
・　第５回「テンちゃん一家の一週間」　　滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校合同
　平成２７年１１月　８日（日）　～　１１月１４日（土）　　６泊７日

※平成２６年１月１日　滝沢村から滝沢市に市制移行

３　参加内訳

		4年生		5年生		6年生		合計	応募状況 （ ）内は予定定員
		男子	女子	男子	女子	男子	女子		
第1回　鵜飼小学校		11	4	15	12	1	0	43	43(30)
第2回　鵜飼小学校		8	6	6	8	7	8	43	75(30)
第3回　滝沢東小学校		0	0	8	4	4	0	16	17(30)
第4回	滝沢第二小学校	3	4	4	3	4	4	22	79(40)
	滝沢東小学校	2	5	3	1	3	5	19	
第5回	滝沢第二小学校	0	2	3	6	4	6	21	37(40)
	滝沢東小学校	2	1	1	4	3	3	14	
合計		24	19	36	28	19	17	143	251

※開始当初、１学級の平均的な人数に相当する３０名を募集定員としたが、第１回は４３名の応募があった。通学送迎バスが４５名まで乗車可能であることから、職員やボランティアスタッフの体制を充実させて、応募者全員を参加可能とした。第２回では、定員の２倍以上の７５名の応募があったので抽選を行い、参加者を４３名にしぼった。第３回は初めての対象となる滝沢東小学校で定員割れの１７名の応募であった。キャンセルが１名あり、１６名での実施となった。第４回は、定員を４０名に拡大して応募した。滝沢第二小学校３５名、滝沢東小学校４４名、合計７９名と、この回も定員の２倍近くの応募があった。抽選を行い、４１名の参加で実施した。第５回についても定員４０名で応募した。３７名の応募があり、キャンセルの２名以外、応募者全員が参加することができた。

４　担当職員，ボランティアスタッフ等

（１）　第１回「テンちゃん一家の一週間」　滝沢市立鵜飼小学校

○国立岩手山青少年交流の家　主任企画指導専門職　國安　裕之（生活指導）
副主任企画指導専門職　相澤　文彦（企画運営・生活指導）
企画指導専門職　鈴木　和彦（プログラム担当）
企画指導専門職　中村　和宏（プログラム担当）
事業推進係長　田口　康宏（プログラム担当）
事業推進係　及川　未希生
（生活指導・ボランティアアドバイザー）

○国立妙高青少年自然の家　法人ボランティア　３名
（生活指導・ボランティアアドバイザー）

○国立岩手山青少年交流の家　法人ボランティア　６名（生活指導）

（２）　第２回「テンちゃん一家の一週間」　滝沢市立鵜飼小学校

○国立岩手山青少年交流の家　主任企画指導専門職　相澤　文彦（生活指導）
副主任企画指導専門職　氏家　伸（企画運営・生活指導）
企画指導専門職　中村　和宏（プログラム担当）
企画指導専門職　髙橋　省一（生活指導）
事業推進係長　田口　康宏（プログラム担当）
事業推進係　及川　未希生
（生活指導・ボランティアアドバイザー）
事業推進係　長谷川　祐太
（生活指導・ボランティアアドバイザー）

○国立岩手山青少年交流の家　法人ボランティア　１０名（生活指導）

（3） 第３回「テンちゃん一家の一週間」　滝沢市立滝沢東小学校

○国立岩手山青少年交流の家　主任企画指導専門職　相澤　文彦（生活指導）
副主任企画指導専門職　氏家　伸（生活指導）
企画指導専門職　中村　和宏（プログラム担当）
企画指導専門職　髙橋　省一（企画運営・生活指導）
事業推進係長　田口　康宏（プログラム担当）
事業推進係　及川　未希生
（生活指導・ボランティアアドバイザー）
事業推進係　長谷川　祐太
（生活指導・ボランティアアドバイザー）
○国立岩手山青少年交流の家　法人ボランティア　８名（生活指導）

（4） 第４回「テンちゃん一家の一週間」　滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校

○国立岩手山青少年交流の家　主任企画指導専門職　氏家　伸（生活指導）
企画指導専門職　中田　春輝（生活指導）
企画指導専門職　中村　和宏（プログラム担当）
企画指導専門職　髙橋　省一（企画運営・生活指導）
事業推進係長　田口　康宏
（生活指導・プログラム担当）
事業推進係　長谷川　祐太
（生活指導・ボランティアアドバイザー）
○国立岩手山青少年交流の家　法人ボランティア　１０名（生活指導）
○岩手大学地域連携推進室（科学実験）

（5） 第５回「テンちゃん一家の一週間」　滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校

○国立岩手山青少年交流の家　企画指導専門職　鎌田　信浩（生活指導）
企画指導専門職　中村　聡　（企画運営・生活指導）
企画指導専門職　髙橋　省一（生活指導）
事業推進係長　田口　康宏
（生活指導・プログラム担当）
事業推進係　髙橋　知也
（生活指導・ボランティアアドバイザー）
○国立岩手山青少年交流の家　法人ボランティア　１２名（生活指導）

Ⅱ　企画運営のポイント

１　対象校・保護者との連携

（１）　学校への事前説明会

対象校と参加児童の保護者に事業の趣旨を理解いただき、協力を得ながら事業を運営するために、事前の説明会を行った。特に、初めての対象となる学校へは、ＰＴＡ総会や学校行事など、教職員や保護者が一堂に会する機会に説明会を設定した。

〇事前説明会開催日

・平成２４年１０月２０日（土）　　鵜飼小学校学習発表会にて
・平成２５年　４月２７日（土）　　滝沢東小学校ＰＴＡ総会にて
・平成２６年　４月２６日（土）　　滝沢第二小学校ＰＴＡ総会、滝沢東小学校ＰＴＡ総会にて

（２）　学校との情報交換

円滑な事業運営ができるように、また、参加児童が安心して１週間の合宿ができるように、対象校との情報交換や共有を密にした。とくに以下の点に留意した。

・事業期間中の学校行事や登下校時刻、学校への持ち物等を把握すること
・事業のプログラムについて学校へ情報提供すること
・児童の応募状況と、抽選による参加決定児童について学校へ情報提供すること
・参加が決定した児童について、配慮を必要とする事項（アレルギーや特別な支援等）を把握すること
・事業期間中に起きた児童の病気や怪我について、学校へ都度，情報を提供すること
・事業期間中の参加児童の活動ぶりや合宿の成果について、学校へ報告すること

（３）　保護者との情報交換

参加が決定した児童の保護者へは事前調査票を配布し、児童の健康状態や生活上配慮をしてほしいことなどを記入してもらいながら、児童についての把握を行った。

また、事業期間中の児童の様子について、病気や怪我、気になった点は情報提供したり相談したりしながら運営にあたった。

事業後には、学校への報告同様に、活動写真や報告書の提供をし、事業での児童の頑張ったことや成長の様子を伝えた。

事業の成果の把握や今後の事業運営の参考にするために、保護者に対する事業アンケート（事業の運営に関することや事業後の児童の家庭生活の様子など）も行った。

2　ねらいに迫るための運営・取り組み

（1） 基本的な生活習慣を身に付けさせるための取り組み

① 活動プログラムを１週間をとおして同じリズムにする。

→1 週間決められた生活リズムを繰り返す。

（早寝早起きの習慣。学校から帰ったらまず宿題。）

→時間を意識して行動する。

② 友達から受ける影響を考慮したグループ分けをする。

→異学年（異学校）のグループにより、色々な人からの影響を受けられるように。

③ 子供たちの活動が自発的な行動になるように工夫する。

→やられた活動では、すぐに元に戻ってしまう。子供達が自分自身でやろう！という気持ちになるように様々な工夫をした。

Point！

（2） 子供たちの活動が自発的な行動になるための工夫

① 自分達の家訓（ルール）を自分たちでつくる。

自分達でルールをつくることによって、ルールに対する自主性・自発性や責任感がますことをねらいとして以下のような方法で最終日までに家訓（ルール）を作り上げていった。

◇ビーイングを用いて毎日のふりかえり活動をする。

ビーイングとは？（やり方の例）

1）みんなの手をつなげる。

2）ペンで手をなぞる

3）自分の手の中に目標を書く

4）個人の目標を共有し、グループの目標を決める

5）目標のために必要なことを手の輪の中に、不要なことは輪の外に書く

6）目標は増やしてもよい
毎日ふりかえりながら書き加えていく

自己主張が苦手な子どもにとっては参加して自分の意見を書き込むことがチャレンジになる子もいる。しかし、比較的自由に書き込める形式であるので、日が経つにつれて徐々に書き込みが増えていき、最終日が近づくと６）の写真のように書き込みが増え、整理するために２枚目に突入するグループもあった。

１日の最後の時間に、ふりかえりを行い、個人やグループの目標に対して、どういうところが良かったのか、また、どういう行動をされるとそれが達成できないとか、話し合いながら、良いこと悪いことを自分たちで決めて書き込んでいく。自分たちが思った事を文字に書き出していくことでビーイングがどんどん自分たちの思いのつまったものになっていった。

◇ビーイングを付箋紙に書き出しＫＪ法の要領で整理する。（６日目夜）

１）ビーイングを見ながら自分が書いたことやキーワードを書きだす。

２）書き出した付箋をグループにまとめる。（協力、規則友情など）

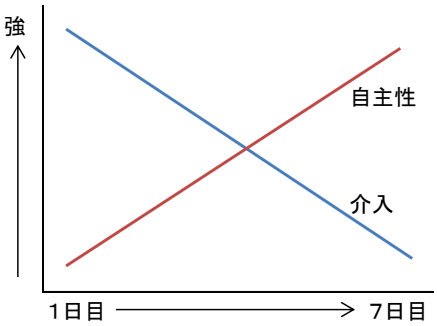
３）グループの共通点などからさらにまとめ、家訓となる文章にまとめていく。

家訓づくりは１週間の集大成と位置づけており、子供たちもみんな一生懸命集中してまとめていた。

② ボランティアの関わり方

◇介入の度合いについて

ボランティアスタッフには事前のミーティングで「介入の度合い」について確認した。

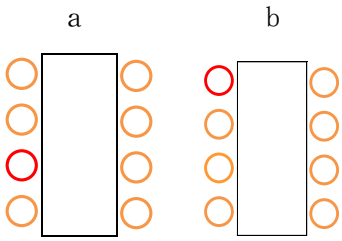


左図は極端な例ですが、ボランティアの介入（何でもやってあげる）が強いと子どもたちの自主性は低くなってしまう。かといって初日からつきはなしては、子供たちは不安になったり、相談ができなくなってしまう。初日はなるべく子供たちと積極的に関わり、すべての子供に声をかけるように指導し、子供たちとある程度関係を築けたら介入の度合いを下げていくように指導した。

まだ大学１年生の経験が浅いボランティアにとっては難しい課題であったが、先輩ボラや職員のアドバイスを受けながら取り組んでいた。

ｅｘ）夜のミーティングでの具体的な指示

食事の時の座る場所について



初日はａ図のように真ん中に入り、すべての子供に話かけられる場所に入り、グループ内でうまくまとめられるリーダーが現れればｂ図のように、うまくグループに入れていない子供がいればその子は自分の隣で会話に入れるようにフォローする。

◇声掛けの工夫

これはボランティアだけではなく職員も気を付けたところですが、子供たちへの指示の出し方も意識して行った。

ｅｘ）宿題の時間の場合

最初「〇時から宿題の時間なので△△をもって■研修室に集まってください」
中頃「〇時から宿題の時間です。何を持ってくればいいかわかるよね」
最後「はい、今から何の時間かわかるよね」

これは例ですが、子供たちが自主的に行動できるように、全部指示するのではなく、逆に指示しなくても子供が自主的に動けているときは黙って見守るなど、子供たちの主体性を大切にした。